

2025_1216 「東海道本線の無人駅」日々の理科 4146 号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

東京口の東海道本線の普通列車（湘南電車）には、主に品川行、平塚行、国府津（こうづ）行、小田原行、熱海行があります。ほかにも伊東線に直通する伊東行列車、JR 東海区間に直通する沼津行列車もありますが、朝夕の数本だけです。かつては、静岡行、浜松行、大垣行なんていう「長距離普通列車」も存在しました。ほかにも下田行や修善寺行の特急列車、四国や山陰まで直通する寝台列車、それに昼夜を問わず貨物列車も多いのが特徴です。まさに、日本の東西を結ぶ「在来線の大動脈」と言えるでしょう。

東海道本線でJR 東日本の区間は、東京～熱海間の 104.6km です。その区間には川崎、横浜、大船、藤沢、小田原など、乗降客の多い大きな駅がたくさんあります。しかし「終日無人」という駅がたった一つだけあります。それが「根府川（ねぶかわ）駅」です。「無人駅」は正確には「駅員無配置駅」といって、きっぷ類の販売や運賃精算等の業務を、一日中行っていない駅のことです。天下の東海道本線に無人駅というのは驚きですが、根府川駅の一日の乗降客はわずか 600 人前後ですので、仕方ないことでしょう。

当の根府川駅は、相模湾を望む崖の上に立地するたぐい稀な駅です。線路よりも更に一段高い場所に駅舎があって、きっぷの自動販売機や、乗車駅証明書発行機、スイカ簡易改札機などがあります。駅前から駅舎を通して、相模湾が見えるというところが特にすばらしいと思います。この駅から一つ小田原寄りの早川駅までの林道は、みかん畠の丘をめぐる、おおらかなハイキングを楽しめます。

（2025 年 12 月中旬／東海道本線根府川駅）

